

自彊前進

NO. 12 平成31年2月4日(月)

附属新潟中学校 学校だより

※ 自彊前進…自ら努め励み、前に進むこと(校歌3番の文言から)

自分の弱さと向き合い、 新たな決意を立てよう!

2月3日(日)は節分でした。そして今日、2月4日(月)は立春です。旧暦では今日から新たな年の始まりとなります。

昨日は「鬼は外!副は内!」と豆まきをして鬼を追い払った家庭も多かったことでしょう。(私の家でもささやかながら行いました。)

鬼を追い払う行事としての節分の歴史は古く、平安時代の宮中行事である「追儺(鬼やらい)」が起源とされています。

平安時代には、追儺は12月31日大晦日に行われ、方相氏(ほうそうし)と呼ばれる鬼役が、手下役の役人を引き連れて宮中をまわり、厄を払うものだったそうです。金色に光る四つの目、朱色の衣装、手に持った盾と矛で、悪鬼を祓うのが方相氏、つまり「善神」だったのですが、9世紀頃からは「悪鬼」と見なされるようになり、弓矢でもって追われるようになってしまいました。…まるで『泣いた赤鬼』の青鬼のようですね。鬼は当時流行した疫病を象徴しており、鬼の姿をした疫病を弓矢で追い払うことで、これを封じ込めようとしたということです。

一方、「豆まき」は、もともと中国 明時代の風習です。日本に伝わったのは室町時代で、年男が「鬼は外!福は内!」と言いながら、炒った豆を撒いていたのだそうです。また、地方によっては節分を「年取りの日」とよび、この日に一つ年をとると考えていたそうで、年の数だけ豆を食べるという風習の起源とされます。

では、そもそも「節分」とは何なのでしょう。節分には「季節を分ける」という意味があります。したがって、四季のある日本では年に4度訪れます。そのうち春の節分だけが残ったのは、この日が一年の初めと考えられていたからです。

現代人にとって年の初めはもちろん1月1日ですが、昔の人々にとっては「冬至」「旧暦の1月1日」「春の節分」の3通りありました。冬至は太陽の力がもっとも弱まる日でありながら復活する日でもあるため、太陽の運行を重要視すれば、年初めとなります。また農作業に従事する人々にとっては、春を一年の初めとするのが自然なので、春の節分を年初めとしてきました。そして暦上の年初めは1月1日となります。ちなみに2019年の旧正月は2月5日なので、節分と大きな開きはありません。また、春の節分は大寒の最後の日にあたるために寒い日が多く、病気にかかりやすい季節でもあることから、厄除けの儀式が重要視された面もあるようです。

さて、長々と節分に関わるお話を綴ってきました。皆さんに感じてほしかったのは次の2点です。

- いつの時代にも、誰にでも、災いや困難があり、それを乗り越えようとする姿があること
- これまでの災いや厄をふりはらい、新しい気持ちで、新しい年に歩み出す姿があること



【退治したい鬼に加筆された「弱気」「眠気」「根気のないこと」】

私たちの祖先の姿を、それぞれが想像してみてください。その命のリレーの最先端に、私たちは生きています。一人一人が気持ちを新たに、新たな志を立てて、困難を乗り越えながら、力強く進んでいきましょう。今日が、そのきっかけになれば嬉しく思います。

通信機器・ネットに関するアンケート結果より

年末に、全校生徒を対象に行った「通信機器・ネットに関するアンケート」の結果がまとまりました。項目および結果の概略は以下の通りです。

項目	1年	2年	3年	全校
1 自分専用の携帯電話・スマホを持っている。	61	64	64	63
2 (持っている人のうち)小学生の頃から持っている。	78	49	46	57
3 携帯使用に関する保護者との約束がある。	79	76	74	76
4 携帯型ゲーム機を持っている。	61	69	64	65
5 携帯型ゲーム機等を使ってネット利用している。	77	80	78	78
6 LINEなどのSNSを利用している。	59	61	59	60
7 YouTube等への動画投稿の経験がある。	6	3	6	5
8 恥ずかしい画像や動画を送った経験がある。	4	3	1	3
9 ネット上でいじめや嫌がらせを受けたことがある。	1	3	0	1
10 ネット上で知り合った人と実際に会ったことがある。	2	3	2	2

※9, 10は、2018.4.1~2018.12.21の間 ※%は小数点以下四捨五入

- どの学年も6割以上が自分専用の携帯電話・スマホを所有しており、特に女子の所有率が高い。
- 約8割が常にネット接続できる環境にいる。
- 少数ではあるが、1, 2年生の中に、ネット上で嫌がらせやいじめを受けた人がいる。
- どの学年にも、ネット上で知り合った人と実際に会った人がいる。

インターネットは、現代社会において必要不可欠なものであり、生活を便利にするものです。その一方で、扱い方によっては危険をもたらすツールです。しばしば、包丁に例えられます。使う人の自覚と高いモラルが求められるものです。

1学期に行った「情報モラル講演会」で、講師の方から学んだことを思い出してみてください。次のことを私たちは学んだはず(学校だより No.5 より転載)。

- SNSの向こう側にはもちろんいい人もいますが、確実に悪人もいます。顔も見えない相手を言葉だけで簡単に信用してはいけません。悪人は相手をだます手段として「なりすまし」を使う。大人が子どものフリをする。男が女のフリをする。知らない人が友だちのフリをする。悪い人がいい人のフリをする。ネット上で知り合った人に実際に会うと、金品の要求、性被害などのトラブルに発展する可能性が大きい。
- 悪戯半分の言動であっても、ネット上に情報が流出すればそれは一生残ってしまう。これをデジタルタトゥーと呼ぶ。いま、中学生であるあなたにも、やがて就職活動をしたり、結婚をしたりする時が訪れる。その時、人事担当者は、結婚する相手の親族は、ネット検索をかけて、過去のあなたの言動を確認します。その結果、過去の言動があなたの未来にブレーキをかけてしまうことも起こりうるのです。
- ネット依存度が高い人は、生活習慣の乱れを生じ易い。犯罪に巻き込まれる危険性が高くなる。そして、一旦その状態に陥ってしまうと、元に戻るためには相当なエネルギーが必要となる。

保護者の皆様、SNS使用について改めて、お子様とお家で話し合ってみてください。家庭では解決しづらいことがあれば、遠慮なく学校までご連絡ください。よろしくお願いたします。(文責:中村教頭)